

大迫町レクリエーション・パーソン・トリップ調査について

岩手大学工学部 正会員 杉藤 昭
 岩手大学工学部 ○正会員 赤谷 隆一
 岩手大学工学部 学生員 伊藤 一夫

1. はじめに

観光レクリエーション空間を育成しようとする町村においては、まずその基礎となる観光資源およびレクリエーション施設の利用動態を十分に把握することが重要となってくる。

大迫町は、昭和51年に早池峰神楽が国指定の重要無形民俗文化財となり、さらには町の北東に位置する早池峰山が昭和57年に国定公園となるなど有望な観光資源が多い。くわえて地場産業のワインと結びついた観光地としても延ばそうとしている。

本研究では、レクリエーション空間⇒観光空間 という図式で、つまり将来観光空間となりうる空間は、まず地区住民に好かれ、かつ利用頻度の高いレクリエーション空間でなければならないという前提にたて、現在地域住民が利用しているレクリエーション施設の利用動態と、各施設間の結びつきの実態をさぐることを目的にパーソン・トリップ調査を実施した。

2. エ) 調査対象、調査地域および回答者

調査対象、調査地域は当町内全域として、各地に散在する観光施設、レクリエーション施設および都市施設の50地点を選定した。調査対象者は当町内に居住する成人男女682人をランダムサンプリングした。抽出率は8%である。回答者はその中の86%の585人である。

Ⅱ) 調査の方法

1年を四季に分割し、春(3~5月)夏(6~8月)秋(9~11月)冬(12~2月)のおのおのについてレクリエーション行動を起こした代表的な日について記入してもらったこととした。昭和56年6月から昭和57年5月までの1年を対象とし、昭和57年8月に留置調査法で行なった。

表-1 1日平均トリップ数

夏	秋	冬	春
1.49	1.07	0.81	0.94

表-2 1日平均トリップ数

夏	秋	冬	春
2.13	1.53	1.16	1.33

3. 解析結果および考察

春夏秋冬にわけた各季節ごとにおける1日平均トリップ数を表-1に示す。これは回答者585人中年間を通してレクリエーション行動を一切していない人が約3割にあたる174名をも含めた平均値であり、実際にトリップをした1人当りの平均は表-2に示すとうりである。表-1、表-2より最もトリップ数の多い季節は夏で、秋、春、冬となってきた。これは、周囲を山にかこまれた当町において、1年の中で12月から3月まで雪で覆われているという点が、レクリエーション行動を起こす上での障害となっていると考えられる。

表-3に目的別1人当り平均トリップ数を示す。目的としてはレクリエーションと考えられるものにした。季節別に見当すれば、春には、山菜取りへのトリップ数が高く、夏はハイキング、祭り(早池峰神社例大祭)へのトリップ数がきわめて高い、同様に秋も祭り(三社祭、郷土芸能祭)、ハイキング等

表-3 目的別1人当り平均トリップ数

	夏	秋	冬	春
スポーツ	0.084	0.051	0.051	0.026
ドライブ	0.120	0.089	0.015	0.034
参拝	0.186	0.067	0.190	0.036
山菜取り	0.046	0.075	0	0.147
釣り	0.089	0.019	0.007	0.046
キャンプ	0.015	0	0	0.002
祭り	0.115	0.077	0.024	0.014
散歩	0.048	0.051	0.012	0.068
ツギンブ	0.036	0.027	0.041	0.022
娯楽	0.058	0.048	0.056	0.034
食事	0.041	0.032	0.027	0.039
学習	0.041	0.036	0.019	0.034
自宅へ	0.456	0.344	0.277	0.326
全目的	1.494	1.072	0.814	0.935

が高いトリップ数を示し、紅葉の時期ともあつて、散策も他の季節と比較すればトリップ数が増加している。冬はきわだ、たものに参拝がある。以上より、当町内におけるレクリエーション行動は、その目的が生活に密着しているということが知られる。

着施設別トリップ構成比

表-4に示されるように、当町においてのレクリエーションの諸施設は屋外のものに集中していることから、早池峰山、その周辺の七折の滝、それに河原の坊キャンプ場、町内の山岳博物館は冬を除く季節に共通して利用されている。又、東根放牧地、名目入放牧地、合石牧野等は春において山菜取りに利用されている。1年間季節を問わずに利用されているものは、神社、仏閣、ふるさとセンター、公民館、愛宕山町民公園それに娯楽施設などである。表-3からも読みとれるが、神社仏閣の利用は、1年の中で春から秋までは祭りなどの娯楽的な対象(参拝がトリップ数としては祭りよりも高くなる、しているが、これは祭りを目的として神社等に行つての参拝だと思われる。)として、冬の場合には、参拝(元朝まいり)となり宗教的な利用となつていていると思われる。公民館、娯楽施設は年中利用されているがとりわけ冬においては、他の季節と比較した場合に、屋内ということで利用度が高くなつていゝる。河川は岳川、中居川、梓貴川この3河川が当町内を流れてゐるが冬の利用は殆んどなく、釣り、散策などに岳川が春から秋まで、中居川、梓貴川は夏だけの利用となつてゐる。

発着トリップ構成比

図-1に主なレクリエーション施設の位置と相互の関連として、発着トリップ構成比より各施設の結びつきを示す。線の太さは各施設間の結びつきの強さを表わしている。図より早池峰山、七折の滝、早池峰神社、河原の坊キャンプ場、岳川の郊外型レクリエーションA(森林・河川中へ)、東根放牧地、合石牧野の郊外型レクリエーションB(丘陵・牧野中へ)、愛宕山町民公園、山岳博物館、ふるさとセンターの都心型レクリエーション、以上3ヶ所の各レクリエーションゾーン内の結びつきが強いということが知られる。

表-4 着施設別トリップ構成比

	夏	秋	冬	春
早池峰山	0.0512	0.0284	0	0.0792
東根放牧地	0.0188	0.0124	0	0.0475
名目入放牧地	0.0047	0.0107	0	0.0178
合石牧野	0.0059	0.0053	0	0.0257
大谷川温泉	0.0059	0.0036	0	0.0139
七折の滝	0.0047	0.0018	0	0.0040
白樺の森	0	0	0.0023	0
奇山	0.0023	0	0	0
高倉山	0.0012	0.0018	0	0
早池峰神社	0.1141	0.0355	0.0460	0.0178
八坂神社	0.0035	0	0	0
樋口忠義	0.0023	0	0.0023	0.0020
林山	0.0259	0.0018	0.0023	0.0059
白山神社	0.0035	0.0089	0.0023	0.0040
金比羅神社	0.0059	0.0089	0.0230	0.0099
八坂神社	0	0.0071	0.0184	0
岳神社	0.0282	0.0231	0.0115	0.0792
田中神社	0.0023	0.0036	0.0069	0.0040
愛宕神社	0.0071	0.0568	0.0920	0.0059
諏訪神社	0	0.0053	0.0069	0
岳神社	0.0129	0	0.0069	0
大徳神社	0	0	0.0046	0
中乙金満	0	0	0	0
八坂神社	0.0012	0	0	0
笠置神社	0	0.0018	0	0
レクリエーション施設	0.0012	0.0033	0	0.0020
河原の坊	0	0.0018	0	0
フナコ	0	0.0053	0	0.0020
野田ガク	0	0.0018	0	0.0020
Y34温泉	0.0071	0.0071	0.0023	0.0040
タノコ温泉	0.0012	0	0	0.0376
大池温泉	0	0.0018	0.0023	0.0040
賢治神社	0	0.0018	0	0.0040
銭湯	0.0012	0	0	0.0020
河原の坊キャンプ場	0.0506	0.0337	0	0.0040
笠置キャンプ場	0.0035	0.0018	0	0.0040
愛宕山町民公園	0.0318	0.0584	0.0138	0.0495
ふるさとセンター	0.0176	0.0178	0.0046	0.0257
山岳博物館	0.0071	0.0160	0	0.0178
小田温泉	0.0094	0.0018	0	0
千本桂	0	0.0107	0.0115	0
岳川	0.0165	0.0124	0	0.0238
中居川	0.0047	0	0.0023	0.0040
梓貴川	0.0282	0.0053	0	0.0059
白土	0.2988	0.3357	0.3793	0.3564
友達の家	0.0271	0.0355	0.0552	0.0297
交通施設	0	0.0018	0.0138	0
娯楽施設	0.0176	0.0178	0.0575	0.0317
公民館	0.0153	0.0249	0.0483	0.0238
その他	0.1294	0.1847	0.1839	0.1881
全目的	1.0000	1.0000	1.0000	1.0000

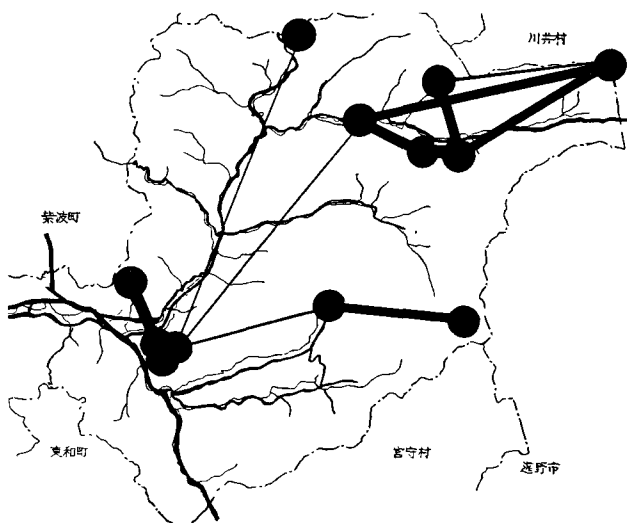


図-1 主なレクリエーション施設の位置と相互の関連

参考文献

・観光レクリエーションパーソントリップ調査に関する研究

赤谷 隆一 安藤 昭 昭和56年 土木学会東北支部研究発表会